

日本幼兒飛行機獻納貯金第二期提唱

日本幼兒飛行機獻納貯金の提唱に對する全國各地の幼稚園の御共鳴と御賛同に就ては、本會の誠に感激にたへぬところであります。第一期締切を二月末日といいたのでしたけれど、御寄託下さつた實い獻納金額は本誌四月號御報告の巨額に達しました。本會として感謝の至りでありました。

實を申せば、最初の提唱としては、御獻納總高の豫想が立ちませんでした。御賛同は確信してゐましたが、實額に於て必ずしも多きを豫期してはならぬと考へたりしてゐました。従つて果して一臺の飛行機が獻納出来るか、それが出来なくとも、せめて一翼となり、機體の一部にでも豫告に書きましたやうに、一部の費用として獻金し得るに止まるか、それは結果を待たねばならぬと思つてゐましたが。勿論初めから第二期、第三期と繼續の豫定ではありましたが。

然るに此の實額が、すなはち第一期だけで、軍用飛行機一臺獻納額金八萬圓の半ばを超えた盛果に對しては、之れに第二期御寄託を併せて是非「幼兒號」を獻納いたすことにしなくてはならぬと所期するに到りました。殊に、御送金と共に寄せられた各幼稚園皆様の御熱意のほどが、いづれも「日本幼兒號」の御切望にあるを知りましては、第一期分だけを切つて部分的に獻金いたすのは遺憾であるといふことが感ぜられました。

すなはち、更に第二期の御寄託により、總額金八萬圓に達するを待て「日本幼兒號」の獻納手つぎを執りたいと思ひます。刻々苛烈なる戦争の深刻性に對し、お互に一日も早く計畫を實現したく、寸時の遅延をも許されないのであります。どうぞ第一期に於ける御熱心をそのままに、更に一層の御盡力を以て具體化させたいものであります。幼兒達の純一なる愛國の心を第一期に對する感謝と共に、第二期に對する切なるお願ひを披瀝する次第であります。

規定

- 一、各園で幼兒の飛行機貯金を計畫的に實行して下さい。
- 一、保護者、職員の方々の御参加も希望します。
- 一、各園名(所在地、代表者名も)を明記し、本會へ(東京都小石川區大塚町三十五、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛)お送り下さい。行き違ひの起らぬ爲に必ず振替貯金にお願します。臺灣は必ず電報爲替にて御送金下さい。振替口座(東京一七二六六)、「飛行機獻金」と必ず附記して下さい。
- 一、第二期締切は昭和十九年六月末日とします。
- 一、全體をまとめて直ちに軍に獻納します。
- 一、獻納には御寄託各園名を列記します。
- 一、別に受領證を差上げず、獻納完了と共に、本誌(昭和十九年九月號)に發表します。
- 一、一切の費用は本會の負擔とし、御寄託の全額全部を獻納します。

昭和十九年五月

日本幼稚園協會

(責任者 倉橋惣三)